

総合的な学習の時間（ヒューマン・セミナー）学習指導案

日 時 令和4年 5月27日（金）公開授業Ⅱ

学 級 岩手大学教育学部附属中学校

2年D組 34名

会 場 1A3A教室

授業者 工藤 真以

1 単元名 岩手県の第一次産業の課題を考える

2 単元について

(1) 生徒観

本学年では、昨年度から『地域に生きる』とはどのようなことか』を共通課題にし、総合的な学習の時間（本校ではヒューマン・セミナー学習：以下HS学習）の学習に取り組んでいる。1学年では、学習フィールドを身近な地域（盛岡市周辺）として、講演会・座談会を実施し、多様な形で地域と関わりながら仕事をされている方から話を伺った。さらに、SDGsの視点を取り入れた調査学習を行い、関連する講演を聞く機会を設けた。そのうえで共通課題に対する考えをプレゼンという形でまとめた。

2学年では学習フィールドを岩手県に広げる。学習を進める中で、岩手の特色の一つである第一次産業に目を向けることとなる。4月のオリエンテーションの時間に、今年度のHS学習でどのようなことを追究していきたいかということを考えさせた。1学年のときから「地域に生きる」ことを追究してきたことから、「地域との関わりについて」と答えた生徒が70%だった。しかし、岩手県の課題やその解決策について目を向けている生徒は、それぞれ17%、14%と2割を下回った。3年間を通して地域について考えていく学習のねらいの一つとして、地域課題の解決の実践を目指している。生徒自身が主体的に学習に取り組んでいくためには、その活動の必要性を実感してもらうことが重要である。本単元では、第一次産業に携わる方々がどのように地域課題に向き合い、対応しているかを調査し、第一次産業の体験やそれに関わる方の講演を聞き学ぶ学習活動（以下校外学習）を行い、自分の考えを明らかにしていく学習活動を展開する。一人一人が仮説を立て、それを明らかにするためにどのように検証していくかを考えながら、事前学習や校外学習、そして事後学習を行い、課題を追究することを目指す。課題解決に向け、協働的に取り組む場面を効果的に位置付け、考えの再構築や合意形成を図る力の育成をしていきたい。

(2) 教材観

2学年ではテーマを「他者から学ぶ」とし、校外学習を予定している。

HS学習では、生徒によりよい生き方を追究させていくことがねらいである。生徒は、3年間を通して『地域に生きる』とはどのようなことか』を共通課題として追究している。1年次は「自分自身を見つめる」というテーマを設定し、自分自身が地域とどのように関わっているか、関わっていききたいかということを考えてきた。2学年の学習が始まった今、改めて、このよりよい生き方とは何なのかを考えさせようとして学習に入る。岩手県に学習フィールドを広げることにより、岩手県の特色の一つに挙げられる第一次産業へ目を向けることになる。激動の時代と言われている今、日々、多くの課題と向き合っている第一次産業に携わっている方から、どのようにその課題に向き合い、解決のためにどのような考え方や工夫をされているのかを学ぶ時間としたい。生徒にとってあまり身近ではない第一次産業について、実際にそれを生業にしている方からの学びをより深めるために、探究のプロセスの中でも「課題の設定」をしっかりと行っていきたい。自らが追究したい課題を設定することにより、主体的に学習に向かうことができると考える。調査学習をもとに仲間と議論し、そこから得た学びから第一次産業に携わる方々がどのように地域課題をとらえ、どのように地域課題に向き合っているのかという視点で仮説を立てる。その仮説を検証するために、校外学習の事前学習や当日の活動を行い、体験することでしか得られない学びがあることに気づかせていく。

学年の後半では、岩手県の地域課題について、自分たちができる解決策はないかを検討し、その実施に向けての調査や計画を立案していく活動を行う予定である。中学生だからこそその発想を生かしながら、岩手県の地域課題の解決につながるような取り組みとは何であるか、それらを解決していくためにはどのような方の協力を得る必要があるのかを考えさせていきたい。

(3) 教科研究との関わり（指導観）

① 総合的な学習の時間における「育成を目指す資質・能力」

ア 探究的な見方・考え方を働かせて、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、根拠を明らかにしてまとめ表現する力。（思考力等）

- イ 探究的な学習に、互いのよさを生かしながら協働的に取り組むことを通して、考えを再構築したり、合意形成を図ったりする力。(協調性等)
- ウ 実社会や実生活の中から問いを見いだす力。積極的に社会に参画しようとする態度。(主体性等)

② 研究の視点

ア 主体的・対話的で深い学び

岩手県の特徴の一つである第一次産業だが、生徒にとっては身近なものであるとは言い難い。そこで、生徒が主体的に学習に取り組むために、一人一人が追究する課題の設定を丁寧にすることが大切だと考える。第一次産業の課題やその対応策について調べる活動をするなかで、生徒自身が追究していきたいと思える課題を見いださせていく。このような活動をするのが、社会に出たときにも自ら問いを見いだす力となると考える。また、調査学習や課題についての議論の場面で、グループでの活動を位置付ける。協働的な活動を行うことで、同じ課題を追究する学習活動を行っていても、調査の視点の違いや多様な情報に触れることが可能となる。異なる視点や考え方に触れることで、自分の考えを再構築したり、合意形成を図ったりする力を高めていくことができる。学習活動において、自らの課題を見直したり、それを追究して何を明らかにしようとしているのかを考えたりすることが、生徒の中で繰り返されていき、探究的な学習の過程が発展させられるようにしていくことができれば、思考力の育成につながると考える。

イ 情報・情報技術の効果的な活用

総合的な学習の時間では、探究の過程のそれぞれの場面で ICT を活用している。例えば、「整理・分析」の場面では、調査した内容を比較、分類したり、関連付けたりしながら、自分の考えを整理していく。その際に、ICT を活用して収集した情報を、教育支援アプリや表計算ソフト、シンキングツールなどを効果的に用いて、学習活動を行うことができる。自分の考えたことや調べたことをポートフォリオとして残せることで、過去と現在の自分の考えの変容を実感することも可能である。また、グループで考えを共有する場面では、これまではグループ内での共有にとどまっていた活動も、教育支援アプリを活用することにより、より広い範囲で考えを共有することができるようになり、議論の範囲を広げる機会とすることもできる。さらに、協働的に探究の過程を進める場合には、共同編集も有効であると考えられる。総合的な学習の時間において、探究的な学習の過程の質的に高めるために、効果的な場面で ICT の活用を考えていきたい。

ウ 小中連携を生かしたカリキュラム・マネジメント

小学校では、「発表する」「発表を聴く」「質問を出す」「質問に答える」などの表現スキルを身に付けている。中学校では、これらのスキルを基盤として「議論する」「議論をコーディネートする」「本質的な質問をする」といったオープンスキルの育成を目指す。特に、2 学年では「議論する」力に焦点をあて、授業づくりをしていきたい。議論する力を高めるためには、論点を正しく把握し、相手の言いたいことを正しく理解する力、相手の意見について判断し、自分の意見内容を組み立てる力、自分の考えを整理し、目的や状況に合わせて適切に伝える力が必要であると考えられる。これらを意識して協働する場面を位置付け、「議論する」活動を通して、自分の考えを明確にすると同時に、他者の考えに触れるだけでなく理解することができるため、協調性の育成にも繋げることができる。また、HS 学習のなかでの議論だけでなく、各教科の授業においても、これらの視点を大切にしながら学習活動を行うことが「議論する」力の育成に効果的であると考えられる。そのため、教科横断の視点が効果的に取り入れられるようなカリキュラム・マネジメントを考えていきたい。

3 単元計画

(1) 単元の目標

理想とする岩手県や盛岡市の姿を実現するために、岩手県の地域課題の解決を目指す活動を位置付ける。その一歩目として、第一次産業に目を向ける。第一次産業を通して地域課題に向き合う人と出会うことで、その地域の特徴や課題をどのようにとらえ、解決しようとしているかを学ぶ。自分たち中学生が取り組むべき地域課題を考えるきっかけとし、その後の学習へと繋げていきたい。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 調査活動を通して、地域には様々な特徴や課題があることを理解している。 ② 調査活動を目的に応じて行っている。	① 収集した資料などを活用・分析し、根拠をもとに適切に岩手県の第一次産業の課題やその課題にどのように取り組んでいるか考えている。 ② 調査内容を、相手や目的を意識して ICT 等を効果的に活用しながらわかりやすくまとめたり表現したりしている。	① 自分や他者の意見や考えのよさに気付きながら、地域課題の調査や仮説・検証の活動に協働的に取り組もうとしている。 ② 地域課題の解決に向けて考える活動を通して、自分の生き方について考えようとしている。

(3) 指導の計画 (23 時間)

探究の 過程	時	学習課題 ・ 学習内容	関連する評価の観点			・ 評価方法
			知技	思考	態度	
	1 ～ 3	吉塚公雄さんの生き方から地域を考える ・強い信念をもって山地酪農に取り組んでいる吉塚公雄さんから、生き方や山地酪農へのこだわり、家族や田野畑への思いなどを学ぶ。	②		②	・観察 (協働の様子) ・振り返り
課題の 設定	4	第一次産業に目を向けて考える ・自分たちが地域と関わりながらよりよい生き方を追究していくことで、理想とする盛岡や岩手について考える。岩手の特色の一つに第一次産業があることを共有し、その課題を調査する。	①			・観察 (調査の様子) ・振り返り
整情 理 報 ・ の 分 析 集	5	第一次産業の課題とは? ・第一次産業にはどのような課題があるのか共有する。 →労働力不足, 高齢化, 低収入, アピールできない ・第一次産業に携わる方々がどのように地域課題の解決に向かって いるかの仮説を立てる。 ・4つの視点に分かれて、それぞれのグループで、それらが本当に 岩手県の第一次産業の課題なのかを調査する。	②			・観察 (調査の様子) ・調査シート
ま と め ・ 表 現	6 本 時	4つの課題は本当に岩手県の第一次産業の課題なのか? ・ジグソー法を用いて調査した内容を共有する。 ・元のグループに戻り、本当にこれら4つの課題が岩手県の第一次 産業の課題なのかを議論する。 ・校外学習の学習を通してどんなことを考えていきたいか、考える。		①		・観察 (協働の様子) ・仮説の内容
情 報 の 収 集 、 整 理 ・ 分 析	7 ～ 20	第一次産業を通して地域課題に向き合うとは? (校外学習) ・事前学習では、岩手県の課題だと予想したものが、本当に訪問す る地でも課題として捉えられているのか、他にも大切な課題がない のかを調査する。 ・校外学習では、岩手県で第一次産業に携わる方から講演をいた だき、体験活動を行う。事前学習や当日の活動を通して、第一次産 業を通してどのように地域と関わっているのか、課題に向き合っ ているのかを学ぶ。	①	① ②		・ポートフォリオ ・観察 (取り組みの様子) ・事前学習レポート
ま と め ・ 表 現	21 22	校外学習で得た学びは? ・4クラスに分かれて行った校外学習について、ジグソー法を用 いて得た学びを共有し、事前の仮説と自分の考えの変化や深まりを 共有、議論する。	②	②		・ポートフォリオ ・観察 (議論の様子)
課 題 の 設 定	23	自分たちが取り組むべき地域課題とは? ・校外学習での学びを通して、第一次産業についての地域課題に向 き合ってきた。次の学習として、さらに広い視点で岩手県の地域 課題について捉え直し、自分たちが取り組むべき地域課題を見出 す活動を行う。	①	①		・ポートフォリオ ・観察 (議論の様子)

4 本時について

(1) 指導目標 (ねらい)

第一次産業の課題について、予想をもとに調査した内容が本当に岩手県の第一次産業の課題なのかを議論を通して考え、課題の本質に迫ることができるようにする。

(2) 評価規準

- ・収集した資料などを活用・分析し、根拠をもとに適切に岩手県の第一次産業の課題やその課題にどのよう
に取り組んでいるか考えている。【思考・判断・表現】

(3) 授業構想

前時までの学習で、岩手県の特色として、よさや魅力に目を向けた。その一方で、岩手県にとって大切な産業の一つである第一次産業には課題があることもわかっている。課題を4つの視点に絞り、その課題について、調査した(図1)。本時は、自分たちが課題だと考えていた視点が、本当に岩手県の第一次産業の課題であるのかを議論する活動を行う。

導入では、前時の学習で調査・分析した情報についてジグソー法を用いて共有する活動を行う。取り上げた4つの課題の実際を交流することで、第一次産業の課題についての理解を深める時間とする。展開では、元のグループに戻り、それぞれが共有した内容をもとに、4つの課題が本当に第一次産業の課題なのかを議論する。根拠となる事例やデータなどを用いて議論ができるように調査した内容を活用することを確認する。議論したことを全体で共



図1 4つの課題の調査内容の例

有し、考え方が深まったことを実感させたい。最後に、校外学習の学習活動を通して、どんなことを調べたり考えたりしていきたいかを考えさせる。実際の学習地が発表されてから、それぞれの課題を学習地に合わせてさらにとらえ直していくことを確認する。振り返りの場面では、議論する活動を行ったことで、自分の考えがどのように変化したかを自覚させる。さらに、もっと考えてみたいことや調べてみたいことなどを考え、次の学習へ繋げていきたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 15	1. 前時で共同編集した資料を確認する。 ・後継者不足、低収入、認知度が低い、イメージが悪いという4つの課題について、調査した内容をまとめたカードで説明ができるように確認する。 2. 調査内容を共有する。 ・調査した内容について、4人グループで共有する。 3. 学習課題を確認する。	・資料は4人グループで共有ノートを用いて作成した。その説明ができるように準備させる。 ・他の課題を知るために、ジグソー法を用いる。
展開 30	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">4つの課題は本当に岩手県の第一次産業の課題なのか？</div> 4. 議論する。 ・共有した内容を踏まえ、課題だと捉えていた4つの視点が本当に課題なのかを議論する。 ・【視点】を踏まえた議論をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【視点】 <input type="radio"/> 根拠は何かを示す。 <input type="radio"/> 自分が調べたこと、共有したことを根拠とする。 <input type="radio"/> 具体的な事例やデータの数値、動画などを活用して、議論する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> (例) 例1 人手不足が深刻ではあるが、それに対して、機械化が進んでいて、思ったより農業は進んでいるようだ。 例2 収入が少ないことが課題だと考えていたが、実はブランディングがうまくいくと、それにより収益を上げることができそうだ。 例3 高齢化はやはり課題であるようだ。若者にいかに興味をもってもらおうかという新たな視点の課題が出てきた。 </div> 5. 全体で議論して深まった内容を共有する。 ・議論の内容について、全体で共有する。 6. 4つの課題を捉え直す。 ・グループ、全体での議論を通して、4つの課題は本当に課題なのか、自分の考えを整理する。 7. 校外学習の学習活動を通してどのようなことを考えていきたいかを考える。 ・課題のとらえについて議論をしたうえで、校外学習を通してどのようなことを明らかにしていきたいかを考える。	・ICTを活用し、これまでに調べた内容に加え、議論の中で出た話題についても積極的に調べながら議論を進められるようにする。 ・課題と捉えていることについて、実は取り組みが進んでいることの実態が見えてくるような議論を目指す。 ・各グループで特に議論になった部分について全体で共有することで、さらなる学びの深まりを目指す。 ・今後の学習を見通し、今日考えたことをこれからの校外学習での活動にどのようにつなげていくのかを考える。 ○収集した資料などを活用・分析し、根拠をもとに適切に岩手県の第一次産業の課題やその課題にどのように取り組んでいるか考えている。【思考・判断・表現】
終結 5	8. 振り返りをする。 ・学習を通して、自分の視点がどのように変化したか、どのように広がったかを考える。 ・これからの学習について、もっと考えていきたいことや取り組みたいことなどを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> (振り返りの例) 例1 4人グループで考えた後に、他のグループの考えを知ったことで、自分たちの考えと違うところがあって、その点について議論をすることができた。結論は出せなかったけど、校外学習を通して仮説を検証していきたい。 例2 第一次産業の課題に向き合うといっても、いろいろな向き合い方があったと考えることができた。実際に体験や講演を通して、今の自分の考えがどのように変化するか楽しみだ。 </div>	・議論を通して、自分の考えがどのように変化しているのかを自覚させ、議論することの意味を感じさせたい。

